

ひまわりからの メッセージ

87号

2018.9.10

西濃地域
発達障がい支援センター
NPOひまわりの花内

発行人：中野たみ子



夏が過ぎ
秋が来て……

この夏は、次から次へと災害のニュースが入ってきました。

洪水・台風・そして北海道の地震……異常気象といわれますが、余りにも大きな被害の前で、一体どうすればいいのか……と思いません。先日、スーパー・ボランティアの方のニュースが久しぶりに世の中を明るくしてくれましたが、日々を忙しく生きている者には、被災地の方々に思いを寄せる一ひとしきりません。どうか一日も早く安心できる生活に戻っていただけるようにと祈るばかりです。

さて、私ごとですが、今日（九月九日）公認心理師の国家試験を受けてみました。結果は「うそ」。知っていたはずの問題も不注意でミスをし、散々でした。こんなに長く生きてきましたのに、知らないことの何と多いことでしょう。心理士という資格をもちながら、本当に駄目だなあと思い知られました。

知識として知っているも、多面的に考えること、文章を読みこんで、そのケースの特性や要因を知って対応を考えることなど、難しいなあと今更ながら思ったことでした。災害についても出題されていて、心理師としてすべきことについても思い悩みました。

「先生、受けなくとも良いんじゃない？」と言つて下さる方もありました。実は、私は試験場のピーンと張りつめた緊張感が好きなのです。何と言えばいいでしょうか、皆さんはそういうことはありませんか。今回もおそらく不合格になるのでは、あの緊張感を味わえただけでも良かったと思ふのです。生きているという実感があるのです。日頃は、そんなに緊張する場面に出会うことは少ないので……。

高校時代、受験に失敗して「先生、失敗しました！」と笑顔で報告に行つて「失敗したのなら、もうちょっと沈んで来いよ」と、担任の先生に言われたものでしたが、きっとその頃から私は余りよくよしない性格だったのだろう。

二学期が始まりました。子どもたちは学校に行つて、どうか。人よりも緊張しやすく、繊細な子どもたちが心配です。私のように「失敗したって良いじゃないの!!」と思えるといいのだけれど……。せめてSOSのサインを送つてくれるといいのに……と思つています。

乳児期から大人まで……

今、考えていること



西濃圏域発達障がい支援センターの対象年令が児童から大人まで広がって五ヶ月が過ぎました。事務所の移転も終え、少しすずつ情報を発進していますが、まだまだ大人の方の相談は入ってきません。就労支援に向けて動いでいる方はセンターにいらっしゃることはなさうし、家庭にひきこもっている方は、なかなか外への一步が向かないでしまうから、これからもつともっと私たちの存在を知つてもらう必要があります。各市町にもっと働きかけていきたいと考えています。

ただ、私たちは「大人」にはかりシフトしていくこともできません。今、お困りの大人の方には、幼児期も学齢期もあつたわけですから、乳幼児期からの気づきと子育てが、何十年か先の将来、今の子どもたちが大人になつた時に、今の大人的のもつ困りは無いようにしていきたいのです。

多職種連携はどうしても必要です。今の子どもたちの実態に合った保育・療育・教育・福祉・保健を考えていくために手を携えること、他の領域のことを知っておくこと、一緒に考えていくましょう。子どもたちの未来のために!!

子どもの認知処理過程について ～PASS理論のこと～

本棚のDNA-CASによる子どもの学習支援～という本を取り出しました。最近、認知処理ということはがかなり広まっていますので、ちょっとご紹介しておきます。

PASSとは、上に書いたように、Pはプランニング、Aは注意、Sは同時処理、Sは継次処理です。この四つの認知処理について、この本は書かれています。

P : Planning
A : Attention
S : Simultaneus
S : Successive

アランニンクト～いうのは、どの様な課題のかを判断したり、どの様に課題に取りくもうかと考えたり、工夫したり、進み具合を確認したり、必要な時には新しい方法や方略を考え出す認知過程です。

例えば単語を覚えるとします。では、どんな方法で勉強すればいいでしょう。
・今日から勉強を始める。
・毎日十五分やる。

- ・単語を十回ずつ書く。
- ・フラッシュカードを作る。等々。



ちなみに私は、今回はカードを作り、車の中に置り、お

き、赤信号で停止した時にカードを見る……というフランクにしました。それしか時間が作り出せませんでしたがう……。このフランクが上手な子は、問題に取り組むための色々な方法を考え出し、効果的な方略を見つけることができるでしょう。

次は、注意です。

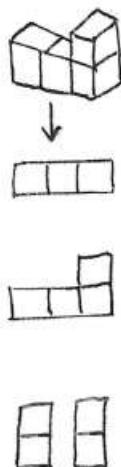
これは、子どもがある物に集中し、それとは別の物を意識的

に無視することを可能にします。周囲の妨害となる物に影響されないと、これは、とても重要です。授業中に先生の指示に選択的に集中し、運動場の他のクラスの友だちの声等を、妨害として無視できるでしょう。でも、これが弱いと集中できず困ってしまいます。左のかっこの中の問題では、子どもは複数のよく似た選択肢の中から正しい答を選ばなければなりません。でも選択肢は似ているので、「妨害」となるものがたくさんあるわけです。つまり、この中から正しい答を探すためには、かなりの注意の力を必要とします。

正しい答に〇をつけなさい。
① 10が5つと1が2つではいくつでしょう。
50 25 52 502 55
② 十の位が2で一の位が7の数字はどれでしょう。
27 270 72 22.702

三つ目は同時処理と呼ばれるものです。

これは、様々な情報を一つにまとめて上手に、それぞれの情報を全体としてどの様に関連づけるかというと、これを使います。数、図形、文のまとまりにも使います。読み理解にも必要です。単語の関係性を理解してまとめて上げることが必要です。左の図は同時処理を目的に作られた图形の問題です。四つの方向から見た図を想像して描くことが求められます。



同時処理の弱い子は空間認知の弱さや全体像への気づきに困ります。

次は継続処理です。

漢字の書き順をまちがえずに書いたり、単語の音をまちがえずに言ったりするのも継続処理です。言われたことを順番に行動に移していくことも、継続処理の力がないと出来ません。

私たちは、これらのことを特に意識せずに日々生活しているわけですが、D.N.I.C.A.S.では、子どもたちの認知処理の特性を知って学習に生かしていくと考えています。

プランニングでは、子どもたちに、考えさせるようにしています。ことばを覚えるのに、どんな方法があるのか、やってみてどうだったのか、自分に合う方法を考えるのです。フラッシュカードを作るとか、単語探しパズルを作るとか、考え方やってみて、評価していきます。

注意では、自分に向かって言うことば「やあ、落ち着いてじっくり考えよう」等と使ってみる、答える前に「数える、一つのことに集中できるよう周りに色々なものを置いておかない等もヒントになります。

同時処理では、絵とことばのマッチングをしたり、反対語を集めたり、ジグソーパズルや隠された絵を探してみたり、家庭のあそびとして取り入れられることがあります。ことは遊びとしては韻をふんだことはや文を考えてみるのもいいでしょう。そういえば私はよく父とは遊びました。小さい時は「い」のつことばを探さうと言って競争したり、漢字を覚えてからは、「しん」という字を思い出さうと競ったりしていました。

子どもたちが絵を描くときにも、構成要素や、色、ラインなど同時処理は必要です。物を関連づけて考えることができます。どうかということはどう。

継続処理では、文字や数字を順番通りに言ってみたり、絵カードを使ってお話をくりをしてみたり、楽しみながら順番にという

ことが身につくといいですね。日常生活の中でも、手順よくやっていくことは大切ですから、朝の準備や着がえなどもカードにしてみたり、帰宅してから順序を書き止めておいたりするのも良いでしょう。

家庭で子どもと遊びながらできることは、まだまだたくさんあるでしょう。忙しいお母さんであれば、台所仕事をしながら、お手伝いの手順を言っこ、その通りにやってもらうということもできるのではないか。

学校での学習での取り組みには触れませんでしたが、情報処理の問題は子どもたちの学習面での困りと直結しているように思います。「一人一人の教育的ニーズ」という特別支援教育の原点は、ますます重要視されていくのではないかと思うのです。今の子どもたちは、幼児期からの遊びが昔とはちがってきています。異年令の子どもたちが遊び姿もなくなりました。子どもたちの環境も変化しつづけています。私たち大人は子育てに戸惑い、自信を失くしていくようにも感じます。私たち自身も日々勉強ですね。

あ
知
ら
せ

・事務所の移転先・和合新町一ー十二中村第三ビル三〇二
・十月の親の会は、十五日、奥の細道記念館です。